

保健学専攻博士前期課程
看護学専攻博士前期課程
臨床心理学専攻博士前期課程
【共通科目】

保健学専攻・看護学専攻 博士前期課程（平成29年度学則）
臨床心理学専攻 博士前期課程（令和4年度学則）
【研究科共通科目】

◆博士前期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 保健、医療、看護、福祉、心理学領域の高度専門職業人としての知識
・専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。
- (2) 保健、医療、看護、福祉、心理学領域の高度専門職業人としての技術
・専攻する専門分野の高度な技術を修得し、高度専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導・教育の役割を担うことができる。
- (3) 医療系の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力
・患者の病態を理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たすことができる。
- ・組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。
- (4) 課題解決のための広い視野と学際的識見
・保健、医療、看護、福祉、心理学領域の諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決には、保健、医療、看護、福祉、心理の連携と協調が必要であることや、他の学問領域の視点で見ることが重要であることを理解し、課題を解決することができる。
- (5) 研究遂行能力
・研究に関する諸概念の理解、研究計画の立案、データの収集・分析、考察ができ、論文を執筆することができる。
また、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (6) 高い倫理観と国際的視野
・他者を尊重し、自己を律することができ、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	ページ
				春	秋	夜間	土曜							
共通研究科目	専門横断科目	八並 光信	2	○		×	○	★						
	研究倫理	滝 智彦	2	○		×	○	★						

*****	*****
【科目名】 専門横断科目 【授業コード】 21S00011 【代表教員】 八並 光信 【担当教員】 瀧上 周、小池 貴久、近藤 知子、樽井 武彦、出嶋 靖志、福長 一義、柴田 茂貴、山本 智朗、松岡 恵、浅沼 奈美、島田 厚良、下島 裕美、竹田 里江、荒添 美紀 【授業概要】 大学院で学ぶ目的は、専門性を深めることのみならず、視野を広め、地域や施設における課題への解決能力を醸成することである。そのためには、専門分野とは異なっても保健・医療・福祉分野における今日の話題や厚生行政の課題について日常から関心を持ち、様々な視点で自ら考えられる力を持つ必要がある。本講義では、そうした話題について多様な専門分野の教員がオムニバスで授業を行うものである。 【学位授与方針の関連 学習目標】 ≪学位授与方針との関連≫ 保健、医療、看護、福祉、心理学領域の高度専門職業人としての知識 ・専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 ≪一般目標 (GIO) ≫ 保健・医療・看護・福祉分野における今日の話題や厚生行政の課題について日常から関心を持ち、様々な視点で自ら考えられる力を醸成する。 ≪個別目標 (SBOs) ≫ ①各テーマの論点について説明できる。 ②各テーマに自らの意見を述べるができる。 【授業計画】 1. 化学感覚 (瀧上) 【講義・質疑応答】 生命や生活の質 (QOL) の維持に大きく貢献する化学感覚について、嗅覚を中心に最近の知見も交えて概説する。 2. 多職種連携とコミュニケーション (荒添) 【講義・質疑応答】 多職種連携におけるコミュニケーションの特徴やコミュニケーションについて考える。 3. メタ認知の基礎と応用 (下島) 【講義・質疑応答】 自分自身を監視しコントロールしようとする働きであるメタ認知の基礎理論と教育・福祉・医療場面におけるメタ認知の応用について学ぶ。 4. 環境と健康の関わり (出嶋) 【講義・質疑応答】 環境と人間との相互作用が健康の諸側面とどのように関わるかについて解説する。 5. 脳と免疫系の相互作用 (島田) 【講義・質疑応答】 脳が免疫系と相互作用する仕組みと、その乱れが多くの精神神経疾患に関与することを概説する。 6. 運動生理学と循環機能 (柴田) 【講義・質疑応答】 運動中の循環動態の変化、特に心臓機能、血圧調節、脳循環調節について学ぶ。 7. 心肺停止と一次救命処置 (樽井) 【講義・質疑応答】 突然の心肺停止など危機的状況下で行われるべき一次救命処置について解説する。 8. 前頭連合野における認知機能と情動の相互作用について (竹田) 【講義・質疑応答】 脳の前頭連合野に注目し、認知機能と情動の相互作用について解説する。 9. 日常作業と健康 (近藤) 【講義・質疑応答】 作業療法の専門性を紹介しつつ、自らの日常作業を健康との観点で振り返る経験をする。 10. 医用工学と医療機器 (福長) 【講義・質疑応答】 多角的な視点から医用工学の基礎や医療機器を解説する。 11. 放射線応用計測の基礎 (小池) 【講義・質疑応答】 身の回りの放射線について知るとともに、放射線計測の原理、計測技術の基礎を概説する。 12. 死後画像の役割と現状 (山本) 【講義・質疑応答】 司法解剖や系統解剖の遗体に対して CT や MRI などを用いるが、その役割と現状を考える。 13. 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) と回復支援 (浅沼) 【講義・質疑応答】 心的外傷後ストレス障害の回復支援と、二次的外傷性ストレス障害の知識を深める。 14. リプロダクティブヘルス/ライツ (松岡) 【講義・質疑応答】 母子保健の重要な概念であるリプロダクティブヘルス/ライツの概念とその歴史的な背景、およびその主要な臨床課題である家族計画について学ぶ。 15. 造血幹細胞移植と理学療法 (八並) 【講義・質疑応答】 白血病における造血幹細胞移植がもたらす、身体的影響と理学療法におけるリスク管理および効果について学ぶ。 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。 【準備学習】 (予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休眠などを利用して復習しておくこと。 【評価方法】 レポート (100%) 15 講義の各回のレポートを作成して、講義後 1 週間以内に担当教員へ提出 (A4 二枚程度)。 【備考】 土曜日の集中講義。 開講予定日 : 5/14 (1-4 限)・5/28 (1-4 限)・6/11 (1-4 限)・6/25 (1-3 限)・7/16 (補講日) *****	【科目名】 研究倫理 【授業コード】 21S00021 【代表教員】 滝 智彦 【担当教員】 松岡 弘芳、柴田 茂貴、大木 幸子、中島 章夫、藤田 千春、相磯 聡子、長谷川 利夫 【授業概要】 保健学部での研究の多くは人を対象とする生命科学・医学系研究である。このような研究は、学問の自由のもとに、研究者が適正かつ円滑に研究を行うことの出来る制度的枠組みの構築が求められる一方で、研究対象者の身体及び精神又は社会に対して大きな影響を与える場合もあり、様々な倫理的、法的又は社会的問題を招く可能性がある。研究対象者の福利は、科学的及び社会的な成果よりも優先されなければならない、また、人間の尊厳及び人権が守られなければならない。文部科学省、厚生労働省および経済産業省では令和 3 年に、全ての“人を対象とする生命科学・医学系研究”の実施にあたって全ての研究者が遵守すべき倫理指針として、従来の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」を統合した「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を定めた。 本科目では、当該倫理指針について概説する。 【学位授与方針の関連 学習目標】 ≪学位授与方針との関連≫ 保健、医療、看護、福祉、心理学領域の高度専門職業人としての知識 ・専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 ≪一般目標 (GIO) ≫ ①人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を熟知し、適切な研究の実施ができる。 ②研究者の責務について理解し、研究倫理申請に係る申請書を適切に作成し、安全に研究を推進し、高い信頼性が確保された研究報告ができる。 ≪個別目標 (SBOs) ≫ ①人を対象とする生命科学・医学系研究に係るインフォームドコンセント、個人情報の保護、匿名加工情報などの内容を正確に説明できる。 ②重篤な有害事象への対応について準備することができる。 【授業計画】 1. 責任ある研究者の行為について [e ラーニング] 責任ある研究者の行為を学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。 2. 研究における不正行為 [e ラーニング] 研究における不正行為を学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。 3. データの扱い [e ラーニング] データの扱いを学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。 4. 共同研究のルール [e ラーニング] 共同研究のルールを学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。 5. オーサーシップ [e ラーニング] オーサーシップを学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。 6. 盗用と見なされる行為 [e ラーニング] 盗用と見なされる行為を学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。 7. 公的研究費の取扱い [e ラーニング] 公的研究費の取扱いを学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。 8. ガイダンスの総則(滝) 【講義・質疑応答】 ガイダンスの総則について学ぶ。 9. 研究者の責務(松岡) 【講義・質疑応答】 研究者の責務について学ぶ。 10. 研究の適正な実施(柴田) 【講義・質疑応答】 研究の適正な実施に必要な研究計画書について学ぶ。 11. インフォームド・コンセント、研究により得られた結果の取扱い(大木) 【講義・質疑応答】 インフォームド・コンセントおよび研究により得られた結果等の取扱いについて学ぶ。 12. 研究の信頼性確保(中島) 【講義・質疑応答】 研究の信頼性確保について学ぶ。 13. 重篤な有害事象への対応(藤田) 【講義・質疑応答】 重篤な有害事象への対応について学ぶ。 14. 倫理審査委員会(相磯) 【講義・質疑応答】 倫理審査委員会について学ぶ。 15. 個人情報等及び匿名加工情報(長谷川) 【講義・質疑応答】 個人情報等及び匿名加工情報について学ぶ。 【準備学習】 インターネットにて「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (令和 3 年 3 月 23 日、文部科学省、厚生労働省、経済産業省)」を入手する。 (予習) 1-15. 各授業の前に、該当する項目を予習する。 (復習) 1-15. 各授業の後に、該当する項目を復習する ※全ての回、予習は 45 分、復習は 45 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休眠などを利用して復習しておくこと。 【評価方法】 レポート(100%) 【備考】 対面講義(8-15 回)は、社会人が夏期休暇を取得する中で効率的に講義を受けられるように 6 月～7 月頃に数日に分けて集中で行う。対面講義までに、e ラーニング(1-7 回)を自宅で実施し、e ラーニング内のテストに合格しておくこと。 *****

臨床心理学専攻
(博士前期課程)

杏林大学 大学院 保健学研究科（博士前期課程） 臨床心理学専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学研究科は、保健、医療、看護、福祉及び心の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。	保健・医療・看護・福祉・心理の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育・技術を求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の諸課題や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。	保健・医療・看護・福祉・心理の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育・技術を求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の諸課題や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。	臨床心理学専攻博士前期課程では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、公認心理師養成科目と、保健学研究科共通科目を設ける。公認心理師の活躍が期待される5分野についての知識や実践力とともに、チーム医療の一員としてのチームワークやコミュニケーションを学ぶため、講義・実習・演習を適切に配置する。これらの科目は、体系的に理解できるようカリキュラムマップにより可視化する。教育内容、教育方法、評価は、以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての能力を修得し、公認心理師国家資格を取得するために ・心理臨床家としての実践力の基礎となる専門的知識を身につけるために、「保健医療」、「福祉」、「教育」、「司法・犯罪」、「産業・労働」の各分野に関する理論と支援の展開を学ぶ科目を配置する。 ・心理臨床家として備えるべき支援技法を身につけるために、「心理的アセスメント」、「心理支援」、「家族関係・集団・地域社会における心理支援」に関する理論と実践を学ぶ科目を配置する。 ・心理臨床家としての態度や実践力を身につけるために、「実習」、「演習」科目を配置する。 ・公認心理師国家資格の取得を目指す学習を促進するために、「臨床心理学特別演習」を配置する。 (1-2) 臨床心理学領域の高度職業人としての問題解決力、協働力を高めるために ・個人や社会集団のニーズに応じた臨床心理学的支援に必要な問題解決力や、チーム医療のメンバーとしての態度を身につけるため、「実習」「演習」「ゼミナール」などの科目を配置する。 (1-3) 高い倫理観を身につけ、社会貢献するために ・臨床心理学的支援を実践して広く社会に貢献するために、保健学研究科共通科目である「研究倫理」や、「心の健康教育に関する理論と実践」などの科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 公認心理師国家資格を取得し、臨床心理学領域の高度専門職業人としての能力を修得するために ・公認心理師養成カリキュラムに沿った科目や実習を適切に配置する。 (2-2) 臨床心理学領域の高度職業人としての問題解決力、協働力を高めるために ・講義や実習、演習などをとおして、臨床実践の方法を検討し、それを他者と共有するための報告書や資料の作成力、プレゼンテーションやフロンティア・イノベーション力などを高める。 ・グループディスカッションやケースカンファレンスなどにより、他者理解や自己理解をふまえた相互理解のあり方、チームワークのためのコミュニケーション力や思考力を高める。 ・「特定の課題についての研究報告」への取り組みにより、臨床心理学的支援を主体的に実践する方法を学び、それを研究報告書やプレゼンテーションとして発表できるよう指導する。 (2-3) 高い倫理観を身につけ、社会貢献するために ・講義や実習、演習などをとおして、社会の一員としてのソーシャルスキルやマナーを身につけるとともに、心理臨床領域の高度専門職業人としての態度を身につけられるよう指導する。 (3) 教育効果の測定 以下の方法で、臨床心理学に関する知識やスキル、協働力、高い倫理観、社会貢献の態度が、公認心理師として活躍するにふさわしいレベルに達しているかを評価し、課程の目的にそった効果が上がっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 学期ごとの学生自己評価により、高度専門職業人としての知識やスキルの修得状況を測定する。 (3-3) ケースカンファレンスやグループディスカッション、「特定の課題についての研究報告」などにおいて、報告書や資料作成力やコミュニケーション力、プレゼンテーション力が身につけているかを測定する。	保健学研究科臨床心理学専攻博士前期課程では、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求める。具体的には、次のような資質をもつ学生を求める。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 対人援助者として、深く人間理解（自己理解、他者理解、相互理解）ができる人 (1-2) 人間の心理社会的課題やその関連領域の課題に関心をもち、それを臨床心理学的方法を用いて解明、解決するための基本的学力と熱意がある人 (1-3) 公認心理師の国家資格を取得し、高度専門職業人として、心理社会的課題をもつ個人や社会集団に貢献する意思のある人 (2) 求める学習成果 (2-1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・能力・態度を備えた人を求める。 (2-1-1) 臨床心理学専攻博士前期課程の教育を受けるために必要な基礎学的学力をもち、対人援助を行うための多角的な人間理解ができる。（知識・技能） (2-1-2) 臨床心理学的支援を実践するための知識、思考力、判断力、行動力、コミュニケーション力がある。（知識・思考力・判断力・行動力・コミュニケーション力） (2-1-3) 公認心理師と他職種との役割の異同をふまえ、他領域の学生とも積極的にディスカッションし、相互理解を深め、互いに学びあう関係を築ける。（態度） (3) 入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 ・心理学領域における小論文、面接から求める学生像、資質、学習成果を評価する。

臨床心理学専攻 博士前期課程

臨床心理学分野

臨床心理学専攻博士前期課程（令和4年度学則）
【臨床心理学分野】 配当表、カリキュラム・マップ

- ◆臨床心理学専攻 博士前期課程 ディプロマ・ポリシー
- (1)臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力
- ・公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。
- (2)臨床心理学領域の高度専門職業人としての実践
- ・保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の公認心理師の活動領域における、個人や社会集団への臨床心理学的支援に必要な知識やスキルを修得し、実践にいかせる。
- (3)高い倫理観と社会貢献への態度
- ・公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 4)	単位数	開講時期				学位授与方針との関連			ページ
				1春	1秋	2春	2秋	(1)	(2)	(3)	
臨床心理学分野	保健医療分野に関する理論と支援の展開	中島 亨	2	○				★		★	97
	福祉分野に関する理論と支援の展開	北山 純	2		○			★	★	★	97
	教育分野に関する理論と支援の展開	—	2			○		—	—	—	—
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	—	2			○		—	—	—	—
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	中村 美奈子	2		○			★	★	★	97
	心理的アセスメントに関する理論と実践	村部 妙美 竹田 里江	2	○				★	★	★	98
	心理支援に関する理論と実践	脇谷 順子	2	○				★	★	★	98
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	村部 妙美	2		○			★	★	★	99
	心の健康教育に関する理論と実践	—	2			○		—	—	—	—
	心理実践実習Ⅰ	中村 美奈子	2	○				★	★	★	99
	心理実践実習Ⅱ	島田 正亮	2	○				★	★	★	100
	心理実践実習Ⅲ	—	2			○		—	—	—	—
	心理実践実習Ⅳ	—	4			○		—	—	—	—
	臨床心理学特別演習Ⅰ	—	2			○		—	—	—	—
	臨床心理学特別演習Ⅱ	—	2				○	—	—	—	—
	ゼミナールⅠ	中島 亨	2		○			★		★	100
	ゼミナールⅠ	竹田 里江	2		○			★	★	★	101
	ゼミナールⅠ	村部 妙美	2		○			★	★	★	101
	ゼミナールⅠ	脇谷 順子	2		○			★		★	101
	ゼミナールⅠ	新井田 素子	2		○			★	★	★	102
	ゼミナールⅠ	中村 美奈子	2		○			★		★	102
	ゼミナールⅠ	島田 正亮	2		○			★		★	102
	ゼミナールⅡ	—	2			○		—	—	—	—
	特別演習	—	2				○	—	—	—	—

【臨床心理学専攻 臨床心理学分野 博士前期課程 履修モデル】

- ・主科目として、専門分野科目から実習を含めて17科目36単位に加えて、特定の課題に関する研究報告書を作成するにあたり、特別演習2単位を履修する。
- ・主科目として、研究科共通科目から研究倫理と専門横断科目（計4単位）を履修する。
- ・上記履修科目は、公認心理師となるために必要な科目が含まれる。

修了要件（40単位以上）							
科目と単位			1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計
主科目	専門分野科目	公認心理師となるために必要な科目	保健医療分野に関する理論の支援の展開 2	福祉分野に関する理論と支援の展開 2	教育分野に関する理論と支援の展開 2		38
			心理的アセスメントに関する理論と実践 2	産業・労働分野に関する理論と支援の展開 2	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 2		
			心理支援に関する理論と実践 2	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 2	心の健康教育に関する理論と実践 2		
			心理実践実習Ⅰ 2		心理実践実習Ⅲ 2		
			心理実践実習Ⅱ 2	心理実践実習Ⅳ 4			
				ゼミナールⅠ 2	臨床心理学特別演習Ⅰ 2	臨床心理学特別演習Ⅱ 2	
				ゼミナールⅡ 2	特別演習 2		
	小計		6	12	10	10	
	研究科共通科目	研究倫理 2					4
		専門横断科目 2					
小計		4	0	0	0		
主科目小計			10	12	10	10	
副科目	他専攻・他専門分野科目						0
副科目小計			0	0	0	0	
合計			10	12	10	10	42

【科目名】保健医療分野に関する理論と支援の展開

【授業コード】2IS10011

【代表教員】中島 亨

【担当教員】

【授業概要】

保健医療分野に関し、公認心理師国家試験問題を念頭に関連分野の講義および演習を行い、大学院での実習に必要な医療面接の実技の説明および試験を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

保健医療分野に関し、公認心理師国家試験を取り上げ、必要に応じてディスカッションを行い、相談活動、カウンセリング活動に必要な実践的能力を培う。医療面接法においては実技について試験を行い、実技が実習に耐えられる状態か否かを判定する。

《個別目標 (SBOs)》

①心の健康について、日常の社会的トピックスから関心を深め、医療・産業・福祉・教育現場における実践的な保健活動を展開することができる。

②心の健康のあり方を精神保健および心理学的な観点から医療モデルと成長モデルについて理解する。

③心の健康問題を「適応」「正常」という観点から理解する。

④他職種の専門家・関係諸機関との連携を理解する。

⑤医療面接の実技について研鑽を行う。

【授業計画】

1. 医療面接法と行動規範/研究・医療倫理講義[講義・質疑応答・演習]

2. 精神医学Ⅰ[講義・質疑応答・演習]

3. 精神医学Ⅱ[講義・質疑応答・演習]

4. 発達障害・青年期思春期精神医学と学校精神保健Ⅰ[講義・質疑応答・演習]

5. 発達障害・青年期思春期精神医学と学校精神保健Ⅱ[講義・質疑応答・演習]

6. 産業精神医学[講義・質疑応答・演習]

7. 感覚器を含む神経機構と神経疾患[講義・質疑応答]

8. 大脳生理学/記憶機能/睡眠[講義・質疑応答]

9. 認知症と高次脳機能障害[講義・質疑応答・演習]

10. 緩和医療とグリーフケア[講義・質疑応答・演習]

11. 災害などの破局的体験と精神医学[講義・質疑応答・演習]

12. 依存症と精神医学[講義・質疑応答・演習]

13. 生活習慣病などの身体疾患と精神医学[講義・質疑応答・演習]

14. 種々の薬物についての知識[講義・質疑応答]

15. 全体の講義についての知識の確認[講義・試験]

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)・記述試験(20%)・実技試験(20%)

※実技試験で不合格の場合実習に参加できないことがある。

※実技試験の日程については別途定める。

【備考】

【科目名】福祉分野に関する理論と支援の展開

【授業コード】2IS10022

【代表教員】北山 純

【担当教員】

【授業概要】

本講義では、福祉分野における心理臨床について扱い、公認心理師としての臨床実践に資する知見を得ることを目的とする。福祉領域における心理的問題は、医療や教育のみならず、文化、社会、法律などとの関連も深く、極めて学際的な特徴を持ち、また子どもから高齢者に至るまでその対象も多岐にわたるが、本講義では特に心理職として現場に出た際に必須となるトピックについて取り上げてゆくこととする。それぞれについて、社会的背景、法制度、精神疾患や心理的問題およびその理解と対応といった広範な知識を習得すると同時に、「福祉」「対人援助」といった心理職の基軸となるありかたについて、ディスカッションを交えながら受講者各自が思索を深める機会になればと考えている。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1)臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(2)臨床心理学領域の高度専門職業人としての実践

保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の公認心理師の活動領域における、個人や社会集団への臨床心理学的支援に必要な知識やスキルを修得し、実践にいかせる。

(3)高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標 (GIO)》

公認心理師として福祉領域における心理臨床実践を行う際に必要な知見を習得する。

《個別目標 (SBOs)》

①福祉分野の臨床現場において生じる多様な心理的問題・精神疾患、その社会的背景や法制度等に関する知識を得る。

②福祉分野における心理臨床実践の際に用いられる心理的援助・心理療法について習得する。

③臨床事例の検討を通じて、福祉分野での心理臨床実践への理解を深める。

【授業計画】

1. 福祉心理学とは[講義・質疑応答]

授業のオリエンテーション。「心理臨床」からみた「福祉」「福祉心理学」について考える。

2. 発達障害[講義・質疑応答]

自閉症スペクトラム障害やADHDなどの病理や心理的特性と、その心理的援助について学ぶ。

3. 児童虐待[講義・質疑応答]

児童虐待に関する社会的背景、子育て支援、児童相談所による介入、社会的養護、虐待が及ぼす心理的特徴について学ぶ。

4. 事例検討(1)[グループワーク]

福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。

5. 不登校・ひきこもり[講義・質疑応答・試験(小テスト)実施]

不登校・ひきこもりに関する社会的背景、本人および家族への心理的援助、「内閉」することの心理的意義について学ぶ。

6. 精神障害[講義・質疑応答]

精神障害者に対する福祉、生活と人権、医療機関での治療や地域におけるケアについて学ぶ。

7. 事例検討(2)[グループワーク]

福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。

8. 被害者支援[講義・質疑応答]

PTSD、暴力による被害(DV)、性被害、災害被害とその援助について学ぶ。

9. 自殺[講義・質疑応答]

自殺に関する現況、自殺の特徴、自殺への対策について学ぶ。

10. 事例検討(3)[グループワーク・試験(小テスト)実施]

福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。

11. 高齢者の身体・心理的問題、認知症[講義・質疑応答]

老いの心理、加齢に伴う心身の変化、老年期の精神疾患、認知症について学ぶ。

12. 高齢者に対するアセスメントと心理療法[講義・質疑応答]

高齢者に対する心理検査(認知機能障害に対する神経心理学検査など)および心理療法(支持的心理療法、回想法、芸術療法など)について学ぶ。

13. 高齢者の虐待、介護者への心理的支援[講義・質疑応答]

介護保険制度、成年後見制度、高齢者の虐待(家族、施設)、介護者支援について学ぶ。

14. 事例検討(4)[グループワーク]

福祉領域における心理臨床事例についてグループディスカッションを行う。

15. まとめ・質疑応答[質疑応答・試験(小テスト)実施]

質疑応答と授業のまとめ。
(フィードバック方法)試験(小テスト)に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献にあたって基礎的な事項を学習し、疑問点や自らの関心について明らかにしておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容を振り返り、習得した知識を確認しておくこと。また、ディスカッションや事例検討でなされた議論について改めて考えを深め、視野を広げるよう努めること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分を必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

試験(授業内の小テスト)(30%)、レポート(70%)

【備考】

【科目名】産業・労働分野に関する理論と支援の展開

【授業コード】2IS10052

【代表教員】中村 美奈子

【担当教員】

【授業概要】

心理職が産業・労働分野での臨床実践を行う上で必要な基礎知識と実践力を身につける。

講義だけでなく、プレゼンテーションを取り入れた授業を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1)臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(2)臨床心理学領域の高度専門職業人としての実践

保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の公認心理師の活動領域における、個人や社会集団への臨床心理学的支援に必要な知識やスキルを修得し、実践にいかせる。

(3) 高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標 (GIO)》

- ① 産業・労働分野で活動するための基礎的知識を学ぶ。
 - ② 職業人への心理学的支援の概要を学ぶ。
 - ③ 働くことの意味を考え、自分自身のキャリア形成を検討する。
- 《個別目標 (SBOs)》
- ① 産業・労働分野における重要トピックスを説明できる (知識)。
 - ② 働く人への具体的な支援を検討できる (知識・技能)。
 - ③ ワーク・ライフバランスとキャリア形成を実践できる (知識・技能)。

【授業計画】

1. 産業メンタルヘルスの基礎問題 [講義・質疑応答]
一般的な企業の成り立ちやそれを取り巻く制度・法令を概観する。
 2. 働くとは [講義・質疑応答]
生涯発達やキャリア発達の視点から、働くことの意味を検討する。
 3. 産業組織心理学の概要 [プレゼンテーション・質疑応答]
モチベーションやリーダーシップなど、産業組織心理学で扱われるトピックについて発表し、ディスカッションする。
 4. 働く人が抱える課題 [プレゼンテーション・質疑応答]
働く人がもつ課題 (ストレス、疾病、自殺、雇用、経済問題など) について発表し、ディスカッションする。
 5. 職場のメンタルヘルスに対する企業の取り組み [プレゼンテーション・質疑応答]
企業による産業精神保健への取り組みについて発表し、ディスカッションする。
 6. ストレスチェック制度 [プレゼンテーション・質疑応答]
ストレスチェック制度について発表し、ディスカッションする。
 7. 職場でおきる課題①精神疾患 [プレゼンテーション・質疑応答]
職場で出会う精神疾患 (うつ病、統合失調症、双極性障害など) について例を挙げて発表し、ディスカッションする。
 8. 職場でおきる課題②発達障害 [プレゼンテーション・質疑応答]
職場で出会う発達障害について例を挙げて発表し、ディスカッションする。
 9. 職場で起きる課題③その他 [プレゼンテーション・質疑応答]
職場で出会う心理社会的課題について例を挙げて発表し、ディスカッションする。
 10. 障害者雇用 [プレゼンテーション・質疑応答]
障害者雇用について例を挙げて発表し、ディスカッションする。
 11. 復職支援 [プレゼンテーション・質疑応答]
精神疾患による休職者への復職支援について例を挙げて発表し、ディスカッションする。
 12. 産業精神保健における他職種連携 [プレゼンテーション・質疑応答]
産業精神保健における他職種連携について例を挙げて発表し、ディスカッションする。
 13. 産業精神保健における心理療法①カウンセリング [プレゼンテーション・質疑応答]
産業分野におけるカウンセリングについて例を挙げて発表し、ディスカッションする。
 14. 産業精神保健における心理療法②認知行動療法 [プレゼンテーション・質疑応答]
産業分野における認知行動療法について例を挙げて発表し、ディスカッションする。
 15. まとめ [講義・質疑応答]
これまでの授業をふり返り、ディスカッションする。
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しておくこと。
- (復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、関連トピックなどについて補足学習すること。
- ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間 (予習復習等) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、プレゼンテーション (50%)

【備考】

オンライン授業も併用する。

【科目名】 心理的アセスメントに関する理論と実践

【授業コード】 21S10061

【代表教員】 村部 妙美

【担当教員】 竹田 里江

【授業概要】

心理検査の査定方法について理解し修得する。特に知能検査 (WAIS)、投射法 (ロールシャッハテスト) 他を中心に心理検査法の研究の歴史を概観し、施行法、検査結果の整理の仕方、解釈の方法、所見の書き方、フィードバックの仕方を概説し、実施方法の習得及び解釈法の基礎を学ぶ。更にケースフォーミュレーションを活用してテストバッテリーによる心理的支援への応用の仕方を知得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- (1) 臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力
 - ・公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。
- (2) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての実践
 - ・保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の公認心理師の活動領域における、個人や社会集団への臨床心理学的支援に必要な知識やスキルを修得し、実践にいかせる。
- (3) 高い倫理観と社会貢献への態度

・公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標 (GIO)》

- ・公認心理師に求められる、高い倫理性と心理査定における態度、知識、技能、援助に役立つスキルを身につける。
- ・最新の査定法と技法を学ぶための生涯学習への意欲を醸成し、常に新しい情報を入手するための基礎を修得する。

《個別目標 (SBOs)》

- ① 心理職に求められる技術と知識を習得し、アセスメントの実施、解釈、支援に結びつけるスキルを身につける。(知識・技能)
- ② 臨床現場で活躍できるふさわしい態度と、十分な倫理的配慮を行なうことができる姿勢を身につける。(態度)
- ③ 臨床心理学的支援を要する者やその家族、及びその関係者に心理的アセスメントの結果等を適切に説明をし、関係を構築する。更に支援を必要とする人の不利益にならないよう関係を調整し、支援をする視点を身につける。(知識、技能、態度)

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答] (村部・竹田)
本講義の内容についてガイダンスを行い、今後修得すべき事項を明確化する。
2. 知能検査の施行法 [講義・演習・質疑応答] (竹田)
知能検査のうち WAIS の施行法を体験的に学習する。
3. 認知機能検査について [講義・質疑応答] (竹田)
近年用いられている認知機能検査について体験的に学習する。
4. 知能検査についての実技テスト [演習] (竹田)
WAIS の施行法について実技テストを行う。
5. 投射法の歴史的背景 [講義・質疑応答] (村部)
ロールシャッハテストを中心に投射法の研究等の歴史的背景とその発展を理解する。
6. 投射法の施行法 [グループワーク、演習、ロールプレイング] (村部)
投射法のうちロールシャッハテストの施行法を体験的に学習する。
7. - 8. 投射法の分類 (反応領域、反応決定因、反応内容) と分類結果の整理 [講義・グループワーク・ディスカッション] (村部)
投射法の反応の分類の方法を説明すると共に、実践的体験を行う。
9. - 10. 投射法の意味づけ (反応領域、反応決定因、反応内容) と継起分析 [講義・グループワーク・ディスカッション] (村部)
投射法の反応の解釈の方法を説明すると共に、実践的体験を行う。
11. ケースフォーミュレーションとテストバッテリー (神経症) [講義・グループワーク] (村部)
神経症事例を用いて、投射法の解釈の仕方を学ぶと共にテストバッテリーの解釈を体験的に学ぶ。更に支援を要する人、その家族や関係者への活用の仕方を学ぶ。
12. ケースフォーミュレーションとテストバッテリー (統合失調症) [講義・グループワーク] (村部)
統合失調症事例を用いて、投射法の解釈の仕方を学ぶと共に、テストバッテリーの解釈を体験的に学ぶ。更に支援を要する人、その家族や関係者への活用の仕方を学ぶ。
13. ケースフォーミュレーションとテストバッテリー (境界性パーソナリティ障害) [講義・グループワーク] (村部)
境界性パーソナリティ障害の事例を用いて、投射法の解釈の仕方を学ぶと共にテストバッテリーの解釈を体験的に学ぶ。更に支援を要する人と、その家族や関係者への活用の仕方を学ぶ。
14. テストバッテリーの組み方、総合的解釈、フィードバックの方法 [講義・グループワーク] (村部)
心理検査全般に対する、テストバッテリーの組み方を学ぶと共にその総合的解釈と、倫理的配慮、及びフィードバックの留意点について体験的に学ぶ。
15. まとめ [講義・質疑応答、最終レポートの提出] (村部・竹田)
更に各回において、短時間の各種心理査定のまとめ、レポートを行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
- 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
- (復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間 (予習復習等) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

成績評価方法: 各時間における提出物 及び 最終レポート (50%)、実技テスト (50%)

再試験実施: 無

【備考】

参考図書として、
改定・新心理診断法 片岡安史 金子書房 1987

を用いて講義を行う。

【科目名】 心理支援に関する理論と実践

【授業コード】 21S10071

【代表教員】 脇谷 順子

【担当教員】

【授業概要】

大学段階での「心理学的支援法」の授業を通じて得た公認心理師に必要な知識の基礎的な理解を基盤とし、①心理療法 ②コミュニティにおける心理的支援 ③心理学的支援の実践について、実践につなげられるような、より専門的な知識を学び、心理学的支援についての理解を深めることを目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1) 臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(2) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての実践

保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の公認心理師の活動領域における、個人や社会集団への臨床心理学的支援に必要な知識やスキルを修得し、実践にいかせる。

(3) 高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標(GIO)》

・心理職に期待される役割を理解し実践力を身につける

・心理職に期待される連携を理解し実践力を身につける

《個別目標(SBOs)》

①心理療法とカウンセリングに関する (1) 発想と歴史、(2) 特徴と適用範囲、(3) 代表的な心理療法の理論と適用について理解する。(知識)

②コミュニティにおける心理的支援に関する (1) 概観、(2) 福祉領域における心理学的支援、(3) 教育領域における心理学的支援、(4) コンサルテーション、(5) 心の健康教育と予防教育について理解する。(知識)

③心理学的支援の実践に関する (1) 個人支援とコミュニティ支援の関係、(2) 危機への介入、(3) 災害などによるトラウマ反応とその支援、(4) 多職種連携とチームアプローチについて理解する。(知識)

【授業計画】

1-15. [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

心理学的支援の発想、方法論、実践される領域、新たな支援法について、代表的な心理療法の理論と特徴、心理学的支援が行われている主な領域、現代を生きる人々のニーズに即した支援法の発展の知識を学ぶ。実践に生かせるように、社会的な事象も視野に入れながら、心理学的支援についての理解を深めていく。

フィードバックの方法：毎回の授業の中で質疑応答の時間を設ける。また、リフレクションシートを用いて、疑問や考えを記述する時間を設け、次の授業の中でフィードバックを行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関しての課題を行い、必要に応じて資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点についてはテキストなどに基き補足学習を実施すること。

*全ての回、予習は30分、復習は30分以上必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション (50%) レポート (50%)

【備考】

「心理学的支援法」 大山泰宏編 ISBN:978-4-86616-065-8 遠見書房

【科目名】 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

【授業コード】 21S10082

【代表教員】 村部 妙美

【担当教員】

【授業概要】

臨床心理学の知識を踏まえ、生物・心理・社会モデルを活用して、家族、職場、地域社会の中で人々と共生するための視点を理解し、活用することが必要となる。本講義では、それらの集団の中で関係性を基軸とした対象のとりえ方を学ぶ。その際有効となるシステムズアプローチの理論、手法、実践方法を体験的に習得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1) 臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(2) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての実践

保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の公認心理師の活動領域における、個人や社会集団への臨床心理学的支援に必要な知識やスキルを修得し、実践にいかせる。

(3) 高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標(GIO)》

公認心理師として支援を要する者や家族他に対して、関係性に着目したシステムズ・アプローチについてその諸理論と支援への応用の仕方を理解する。連携・協働を行う際の視点を習得する。

《個別目標(SBOs)》

①家族関係の関係性に焦点をあてたアプローチを理解し、実践への基礎を学ぶ。(知識・技能)

②社会・集団・家族を支援する際、客観的にアセスメントをし、支援をするための視点や理論を理解し、実際の支援にどのように繋げていくかを習得する。(知識・技能)

【授業計画】

1. 家族、集団、地域社会に対する心理的支援を概観する[講義・質疑応答]

家族、集団、地域社会に対する心理的支援をする際、関係性に着目したシステムズアプローチは有効な理論であり、実践方法である。その活用の仕方とシステムとして対象を

とらえる様々な視点について概観する。

なお講義の中でミニレポート及びレポートを課すが、詳しくは第1回目の授業ガイダンスで説明します。

2. 現在の家族の置かれている状況、研究データによる特徴を概観する。[講義・質疑応答]
特に青年期の子どもを抱えた家族の特徴などをふくめ、家族の発達とその特徴を理解する。

3. 家族療法の実践[講義・質疑応答]

DVDを通して、その手法を体験を踏まえて検討する。

4. 家族療法の各論1[講義・質疑応答]

多世代間家族療法アプローチの理論

5. 家族療法の各論2[講義・質疑応答]

多世代間家族療法アプローチの技法と実践

6. 家族療法の各論3[講義・質疑応答]

構造派家族療法アプローチの理論

7. 家族療法の各論4[講義・質疑応答]

構造派家族療法アプローチの技法と実践

8. 家族療法の各論5[講義・質疑応答]

コミュニケーション学派の家族療法アプローチの理論

9. 家族療法の各論6[講義・質疑応答]

コミュニケーション学派の家族療法アプローチの技法と実践

10. 家族療法の各論7[講義・質疑応答]

戦略派の家族療法アプローチの理論、技法と実践

11. 自分の家族を理解する。[講義・ワーク・質疑応答]

家族アセスメントの理論と手法 (1)

12. 家族をアセスメントする[講義・ワーク・質疑応答]

家族アセスメントの理論と手法 (2)

13. 社会・集団における関係性のとりえ方[講義・ワーク・質疑応答]

集団、コミュニティにおける関係性のとりえ方と、理論の紹介(集団療法、コミュニティ心理学を含む)

14. 統合的アプローチ[講義・質疑応答]

個人支援のアプローチと家族支援のアプローチの検討

?家族、集団、コミュニティへのシステムズアプローチ[講義・質疑応答]

実践への応用と連携の視点について (実践的手法)

(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次の講義で行う。1.

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を

実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

ミニレポート(50%)、最終レポート(50%)

【備考】

【科目名】 心理実践実習 I

【授業コード】 21S10103

【代表教員】 中村 美奈子

【担当教員】 村部 妙美、脇谷 順子、中島 亨、石川 智、大西 真美、櫻井 未央、

島田 正亮、平子 雪乃

【授業概要】

本科目は公認心理師養成科目である。

心理臨床家として活動するために必要な対人スキル、態度やマナー、さまざまな場面や形式での情報の取り扱い方、自己管理、臨床実践に必要な対人援助スキルを、実践的に身につける。

【学位授与方針の関連 学習目標】

1) 臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(2) 臨床心理学領域の高度専門職業人としての実践

保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の公認心理師の活動領域における、個人や社会集団への臨床心理学的支援に必要な知識やスキルを修得し、実践にいかせる。

(3) 高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標(GIO)》

・心理職に求められる態度、知識、対人援助スキルを身につける。

・心理職として継続すべき生涯学習への意欲を醸成する。

《個別目標(SBOs)》

①心理職に求められる役割やスキルを検討し、身につける。(知識・技能)

②各臨床現場の特徴に相応しい態度を身につける。(態度)

③臨床心理学支援を要する者やその家族、職場の仲間や上司となるべき立場の方々などとの関係性やその築き方を検討する。(知識・技能、態度)

【授業計画】

本科目には、公認心理師養成にかかる実習指導教員の資格をもつ担当教員がすべての回に参加する。また、臨床心理学やその他の対人援助を専門とする教員も、授業内容に応じて参加する。

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

学内実習の目的、進め方、スケジュールなど、基本的なルールを確認する。

2. 大学院での学びと臨床実践の基礎 [講義・質疑応答]

対人援助の知識やスキルを学び、実践するための学び方や心構えと、その基礎となる自己理解を深める。

3-5. 傾聴訓練 [講義・ロールプレイング]

対人援助の基礎である「聞く」ことを体験的に学ぶ。

6-7. .アサーショントレーニング [講義・ロールプレイング]

対人援助の基礎である「話す」「伝える」ことを体験的に学ぶ。

8. 接遇 [講義・ロールプレイング]

対人援助の基礎である「他者との関わり」「立場に応じた行動」を体験的に学ぶ。

9. 臨床実践記録の書き方 [講義・グループワーク]

実習記録やケース記録、各種報告書やレポートの書き方を体験的に学ぶ。

10. 予診の取り方 [講義・ロールプレイング]

医療における予診について体験的に学ぶ。

11. 医療接遇 [講義・ロールプレイング]

医療現場でのクライアント対応や、多職種との関わりについて体験的に学ぶ。

12. 実習前指導 [講義・グループワーク]

後期からの外部実習にむけ、クライアント・患者に適切な対応ができるかを確認する。

13. 実習前指導 [講義・グループワーク]

後期からの外部実習にむけ、必要な医療的知識を確認する。

14. 実習前試験 [講義・ディスカッション]

後期からの外部実習にむけ、心理臨床を学ぶ学生としての基礎的知識や基礎的態度が身についているかを確認する。

15. 事前学習 [講義・グループワーク]

外部実習先の概要とそこで求められる心理職としての知識・技能・態度を学び、外部実習の準備をする。

16. ガイダンス [講義・グループワーク]

前半の心理実践実習Ⅰをふり返り、後半の目的・進め方・スケジュールなどを確認する。

17. ケースカンファレンスと事例発表 [講義・ディスカッション]

ケースカンファレンスや事例発表の方法やマナーを学ぶ。

18. 20. 22. 24. 26. 28. 模擬ケースカンファレンス [講義・ディスカッション]

模擬的ケースを用いて、事例の見立てや支援計画、支援の流れなど、心理臨床の実際を学ぶ。

19. 21. 23. 25. 27. 29. 実習報告会 [講義・ディスカッション]

外部実習での学びから、心理職として必要な知識や態度を体験的に検討する。

30. まとめ／研究報告会 [講義・ディスカッション]

本科目での学びをふまえて、各学生がもつ心理臨床に関連する研究課題について発表し、知識と実践力を関連づけて深める。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

量的評価(提出物、活動時間など)50%、質的評価(ロールプレイング・グループディスカッション・報告書等の内容など)50%。

【備考】

単位取得には90時間の参加が必要である。原則として、毎回参加すること。

欠席の場合は、理由書と理由を証明するものを提出すること。

【科目名】心理実践実習Ⅱ

【授業コード】2IS10113

【代表教員】島田 正亮

【担当教員】脇谷 順子、村部 妙美、中島 亨、中村 美奈子、石川 智、大西 真美、櫻井 未央、平子 雪乃

【授業概要】

大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解を基盤とし、心理に関する支援を要する者等に対する支援に係る実習を行う。心理に関する支援の実践を通して、個別目標にあげた①から⑤について身につける。また実習指導者又は実習担当教員による指導を受けることにより、心理に関する支援の知識と技能の更なる修得を目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1)臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(2)臨床心理学領域の高度専門職業人としての実践

保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の公認心理師の活動領域における、個人や社会集団への臨床心理学的支援に必要な知識やスキルを修得し、実践にいかせる。

(3)高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標(GIO)》

・心理職に期待される役割を理解し実践力を身につける

・心理職に期待される専門的技術を身につける

・心理職に期待される連携を理解し実践力を身につける

・社会人としての常識、マナーを身につける

《個別目標(SBOs)》

①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーションや心理学的支援、多職種連携の方法について理解し、身につける。(知識・技能)

②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズを把握し支援計画を作成できる(知識・技能)

③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチを理解し、身につける。(知識・技能)

④多職種連携及び地域連携について理解し、身につける。(知識・技能)

⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できる。(知識)

【授業計画】

1-15. [実習・質疑応答]

公認心理師が活躍する医療機関を中心とした臨床現場での実習を行う。各現場での公認心理師の役割をふまえて、そこで求められる対人コミュニケーションや心理学的支援、多職種連携の方法を実践的に学ぶ。また、心理臨床実践にかかる記録やその管理方法を実践する。これらから、公認心理師として活躍できるスキルを身につける。また司法・犯罪分野の施設における見学実習も実施する。なお、本実習は90時間以上の時間数を必要とする。

(フィードバックの方法) 毎回の実習記録に疑問点や自身の課題を記載させ、実習担当教員がフィードバックを行う。ケースカンファレンス時には実習中の体験や課題を取り上げ、振り返りができる機会を設ける。巡回指導では学生からヒアリングを行い、課題を早期に発見して指導する。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、実習で必要とされる知識に関連する基礎的な事項を学習しておくこと。また各回の実習目標について整理し、まとめておくこと。

(復習)

1-15. 実習記録をまとめ、疑問点や課題、自身の不足している点について、次回実習日までに補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

実習指導者による評価(70%)、実習担当教員による評価(30%)

【備考】

単位取得には90時間の参加が必要である。原則として、毎回参加すること。

欠席の場合は、理由書と理由を証明するものを提出すること。

【科目名】ゼミナールⅠ

【授業コード】2IS10162A

【代表教員】中島 亨

【担当教員】櫻井 未央

【授業概要】

臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1)臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(3)高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標(GIO)》

心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。

《個別目標(SBOs)》

①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。

②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。

③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。

④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。

2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答]

論文やレポートなどの書き方を確認する。

3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答]

研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。

7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答]

特定課題を研究するための計画を立てる。

9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答]

研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

研究計画を完成させる。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問30%、プレゼンテーション30%、研究計画書40%

【備考】

参考図書:「伝わる!ロジカル文章術」酒井浩二(2021)ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

【科目名】ゼミナール I

【授業コード】21S10162B

【代表教員】竹田 里江

【担当教員】萩原 豪人、三浦 大志

【授業概要】

臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1)臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(3)高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標(GIO)》

心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。

《個別目標(SBOs)》

①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。

②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。

③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。

④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。

2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答]

論文やレポートなどの書き方を確認する。

3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答]

研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。

7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答]

特定課題を研究するための計画を立てる。

9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答]

研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

研究計画を完成させる。

(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問30%、プレゼンテーション30%、研究計画書40%

【備考】

参考図書:「伝わる!ロジカル文章術」酒井浩二(2021)ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

【科目名】ゼミナール I

【授業コード】21S10162C

【代表教員】村部 妙美

【担当教員】石川 智

【授業概要】

臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1)臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(3)高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むと

ともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標(GIO)》

心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。

《個別目標(SBOs)》

①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。

②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。

③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。

④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。

2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答]

論文やレポートなどの書き方を確認する。

3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答]

研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。

7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答]

特定課題を研究するための計画を立てる。

9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答]

研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

研究計画を完成させる。

(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問30%、プレゼンテーション30%、研究計画書40%

【備考】

参考図書:「伝わる!ロジカル文章術」酒井浩二(2021)ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

【科目名】ゼミナール I

【授業コード】21S10162D

【代表教員】脇谷 順子

【担当教員】大西 真美

【授業概要】

臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

(1)臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(3)高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

《一般目標(GIO)》

心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。

《個別目標(SBOs)》

①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。

②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。

③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。

④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。

2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答]

論文やレポートなどの書き方を確認する。

3-6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答]

研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。

7-8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答]

特定課題を研究するための計画を立てる。

9-14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答]

研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

研究計画を完成させる。

(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を

実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 30%，プレゼンテーション 30%，研究計画書 40%

【備考】

参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

【科目名】ゼミナール I

【授業コード】21S10162E

【代表教員】新井田 素子

【担当教員】古川 綾子

【授業概要】

臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

(1) 臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(3) 高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

≪一般目標(GIO)≫

心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。

≪個別目標(SBOs)≫

①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。

②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。

③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。

④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。

2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答]

論文やレポートなどの書き方を確認する。

3－6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答]

研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。

7－8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答]

特定課題を研究するための計画を立てる。

9－14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答]

研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

研究計画を完成させる。

(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 30%，プレゼンテーション 30%，研究計画書 40%

【備考】

参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

【科目名】ゼミナール I

【授業コード】21S10162F

【代表教員】中村 美奈子

【担当教員】平子 雪乃

【授業概要】

臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

(1) 臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(3) 高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

≪一般目標(GIO)≫

心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。

≪個別目標(SBOs)≫

①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。

②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。

③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。

④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。

2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答]

論文やレポートなどの書き方を確認する。

3－6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答]

研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。

7－8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答]

特定課題を研究するための計画を立てる。

9－14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答]

研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

研究計画を完成させる。

(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 30%，プレゼンテーション 30%，研究計画書 40%

【備考】

参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8

【科目名】ゼミナール I

【授業コード】21S10162G

【代表教員】島田 正亮

【担当教員】橋本 望

【授業概要】

臨床心理学における幅広い課題を理解したうえで、自らの問題意識に基づいて、その問題の解決に向けた研究ができることを目指す。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

(1) 臨床心理学領域で活躍できる職業人としての能力

公認心理師資格を有する専門職業人として、個人やそれを取り巻く社会集団がもつ臨床心理学支援へのニーズに適切に応え、その福祉に資することができる。

(3) 高い倫理観と社会貢献への態度

公認心理師として高い倫理観をもって個人や社会集団の心理社会的課題に取り組むとともに、高度専門職業人としての自覚をもって自己研鑽を継続できる。

≪一般目標(GIO)≫

心理臨床に関する課題に関心をもち、課題の解決に向けて、主体的に活動できる。

≪個別目標(SBOs)≫

①臨床心理学における課題を幅広く把握し、自らの関心を先鋭化できる。

②自らの問題意識に基づき、必要な先行研究や文献を収集できる。

③先行研究や文献を精査し、自らの見解を醸成できる。

④課題の解決に向けた研究計画が立てられる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

授業の進め方、特定の課題についての研究の考え方を説明する。

2. 論文・レポートの書き方 [講義・質疑応答]

論文やレポートなどの書き方を確認する。

3－6. 研究課題の特定 [講義・質疑応答]

研究課題に関する先行研究を講読し、課題を特定する。

7－8. 研究計画の策定 [講義・質疑応答]

特定課題を研究するための計画を立てる。

9－14. 文献・資料の精査 [講義・質疑応答]

研究課題に関する文献や資料を精査し、論旨の構成を検討する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

研究計画を完成させる。

(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習等)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用

して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 30%，プレゼンテーション 30%，研究計画書 40%

【備考】

参考図書：「伝わる！ロジカル文章術」酒井浩二（2021）ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1566-8